

擦文・アイヌ文化～窪みが残る古代集落遺跡群を巡る～

と き	令和6年2月25日（日）午前9時30～12時
と ころ	郷土資料館・床丹1遺跡、床丹1チャシ跡
参加者数	4名
ガ イ ド	別海町郷土資料館 石渡

講座の様子

はじめに、郷土資料館で旧石器時代からアイヌ文化期についての歴史を振り返りながら、町内の各時代の遺跡についてお話をしました。

その後、車で移動し、床丹1遺跡、床丹1チャシ跡を見学しました。

大形の竪穴住居跡の形、深さ、間隔などをじっくり観察しました。チャシ跡については、道路の建設により大部分が失われていることも見る事が出来ました。

身近にある古代遺跡を巡り、当時の様子を想像することが出来たかと思えます。

参加者の感想

・中々自分の目で確認することができないものだと思っていましたが、ここまでしっかり跡として竪穴住居の姿が想像できるとは思っていませんでした。所々ご説明していただけてとても勉強になりました。また機会があれば参加させていただきます。本日はありがとうございました。

・今日はありがとうございました。また、このような機会があれば、ぜひ参加させていただきたいです。

・別海の身近な場所にたくさん遺跡があることを実感できる機会になりました。数千年の歴史が別海にあることを少しでも多くの中学生に伝えることが別海を故郷の地と思ってもらえることにつながるので学校教育の中に取り入れていきたいと強く思いました。今後も参加したいと思いました。ありがとうございました。

・長年暮らしている別海町について、今まであまりにも無関心でした。素晴らしい自然もさることながら、歴史、特に古い時代のものにとっても興味があります。今日は、昔（以前）住んでいた（本別海）ところに近い場所にこのような遺跡があることを知り感動しました。ありがとうございました。

・タイムスリップして縄文の人たちや擦文の人たちの暮らしを見てみたくなった。床丹の住居跡、畑の跡、こんなところにこんなものがあつたのかと感慨深いものがあつた。